

2016 年度日本海洋学会春季評議員会議事録

日時：2016 年 3 月 15 日（火）18:30～20:45

場所：東京大学本郷キャンパス山上会館地下食堂

出席者：日比谷会長、神田副会長、植松監査、秋友、安藤、石坂、磯辺、市川(香)、市川(洋)、伊藤、植原、大島、岡、小川、小畑、郭、加藤、蒲生、川合、河宮、轡田、久保田、倉賀野、根田、齊藤(宏)、須賀、杉崎、武岡、津田、中田、中野、中村、西岡、羽角、広瀬、本多、升本、松野、道田、三寺、見延、安田、山中、吉川、吉田各評議員（45 名）

門谷沿岸海洋研究会会長、山城 2016 年度秋季大会大会長、渡邊ブレイクスルー研究会会長、小埜幹事、東塚幹事、毎日学術フォーラム(小野、平坂)

委任状：磯田、江淵、久保川、武田、花輪、原田、深澤（7 名）

開会に先立ち伊藤集會担当幹事より、出席者 45 名、委任状 7 通で細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。引き続き日比谷会長から発言があり、昨年 12 月 8 日に逝去された故角皆静男会員に黙祷を捧げた。

1. 会長挨拶（日比谷会長）

新たにセッション提案性を導入した本春季大会では、若手を含む会員による活発な議論が行われている様子が確認できたこと、2017 年度春季大会を JpGU と AGU の合同大会に合流して開催することに関連し、メーリングリストやホームページを通じて広く会員の意見を募集した。また、水産海洋学会、日本プランクトン学会などの関連学会等との合同シンポジウムの企画を提案して調整中であること、ワーキンググループを結成し、2017 年度以降の研究発表大会にかかわる諸問題に関して議論を深めたことが報告された。これに加え、JpGU への合流により他分野との交流や総合科学としての海洋学のレベルアップや国際化を目指しており、日本海洋学会から 8 名の代議員が選出され、原田、日比谷両会員が理事に選出されたこと、大型研究計画に関するマスタープラン 2017 に水産・海洋科学研究連絡会や日本古生物学会との連携提案書を 3 月末に提出予定であることが報告された。

2. 大会実行委員長挨拶（古谷委員長）

セッション制を新たに導入し、25セッション、口頭発表244件、ポスター発表89件の申し込みがあったこと、参加者が483名に達したことが報告された。セッションで発表数が多いものでは19件の口頭発表があり、全体としてバランスが取れており、招待講演も企画され、大会として良い形に進んでいることが報告された。

3. 報告事項

1) 会務報告

庶務（小畑幹事）

2015年度の会員異動状況について報告があった。2016年1月現在の会員数は1730名で、1年前に比べて37名減少した。会員情報管理WEBサービスを本年度から導入することが報告された。

編集

① JO（石坂編集委員長）

2015年度の発行状況について報告があった。積極的な投稿、海外研究者への投稿勧告、インパクトファクター上昇のための2年以内の引用について協力が求められた。新編集委員2名が就任したこと、代理投稿による投稿システムの混乱があったこと、掲載料として57編分143万円の収入があったことが報告された。

② 海の研究（市川編集委員長）

2015年度の発行状況、編集委員の交代、投稿規定の改定（共著者資格、二十投稿禁止の明確化）、EBSCO社と文献情報データベース掲載についての契約締結について報告があった。また、2016年度の出版計画ならびに方針について説明があった。

③ JOS ニュースレター（津田編集委員長）

編集ミス等もあったが、4号を順調に発行したことが報告された。巻頭記事を募集していることが紹介された。

研究発表（山中幹事）

2015年度秋季大会ならびに2016年度春季大会について報告があった。2016年度秋季大会は、9月11～15日に鹿児島地区の会員の担当で、鹿児島大学郡元キャンパスにて開催予定であること、セッション募集中であることが報告された。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞（古谷前委員長）

選考過程および選考結果について報告があった。

② 日高論文賞、奨励論文賞（秋友前委員長）

選考過程および選考結果について報告があった。

③ 環境科学賞（鈴木前委員長代理小川評議員）

選考過程および選考結果について報告があった。

選挙管理（山中幹事）

各賞可否投票、各賞候補者選考委員選挙の結果について報告があった。

広報委員会（小笠幹事）

昨年度発足した広報委員会の活動について報告があった。一般向けウェブページ作成と一般向け講演会の開催を計画していること、春季大会発表のプレスリリースを行ったこと、講師派遣事業を開始する予定であることが報告された。

海洋環境委員会（鈴木委員長代理小畑幹事）

新委員4名が加わったこと、青い海助成事業について2015年度2件、2016年度2件を採択したこと、2016年度事業として緊急提案型の案件の募集を継続することが報告された。

海洋環境問題研究会（速水研究会会長代理小川評議員）

2016年度春季大会でナイトセッションを開催したこと、秋季大会でもシンポジウムを企画中であること、「沿岸環境調査マニュアル」の改訂を予定していることが報告された。

沿岸海洋研究会（門谷研究会会長）

会員異動状況、沿岸海洋研究第53巻の発行、速水論文賞授与、震災復興関連の春季シンポジウムの開催、シンポジウムについての検討WGの設置、会費値上げについて報告があった。

西南支部（中村事務担当幹事）

ニュースレターの発行とホームページの維持管理を行ったこと、西日本地区調査技術連絡会での報告やシンポジウム開催などの活動を行ったこと、来年度は役員幹事交代予定であること、次回シンポジウムを鹿児島で開催予定であることの報告があった。

教育問題研究会（轡田研究会会長）

2015年度の活動報告に加えて、3月26日の「海をはかる～海洋観測と私たちの暮らし～」、春季大会でのポスターイベント「海洋教育特別イベントー普及・実践のためのネ

ットワークづくりー」、3月19日の海のサイエンスカフェの開催について紹介があった。また、出前授業を開始すること、秋季大会でCOSIA体験講習会を開催予定であることが報告された。日本海洋学会ホームページから一般向けサイトとして教育問題研究会のページにリンクすることが提案され、広報委員会で予定しているウェブページ改訂にあわせて検討することとなった。

ブレイクスルー研究会（渡邊研究会）

2015年度春季大会でのシンポジウム開催、日本航海学会海上交通工学研究会とのセッション共催、4名の新研究会員追加の報告があった。また、2016年以降は年1回の勉強会・シンポジウム・ナイトセッション等を開催すること、関連学会のリストアップと連携提案を行う予定であることが報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会（河野委員長代理小畑幹事）

海洋観測ガイドラインを完成し、ウェブで公開したこと、英語版を編集中であることが報告された。

2017年度以降の研究発表大会にかかわる諸問題検討WG（小畑幹事）

2017年度春季大会をAGUと合同で開催されるJpGU合同大会に合流する形で開催するにあたって諸問題を検討するWGが設置された。これまでに検討した内容が報告された。WGでの議論の結果、2017年度の通常総会ならびに春季評議員会の春季大会期間中の開催、秋季大会での受賞記念講演、春季大会の実行委員会設置（委員長：JpGU担当幹事）という提案に至ったことが報告された。また、2018年度以降の大会については2017年度春季評議員会・通常総会に提案すること、JpGUでの生物分野のセッションの立ち上げ、水産海洋学会や日本プランクトン学会との合同シンポジウムの開催、財政面や秋季大会の盛り上げについての検討結果が報告された。

評議員との質疑応答により、2017年度春の合同シンポは柏で行う可能性が高いこと、2018年度以降の大会開催は2017年度春の評議員会・通常総会の結果次第であること、JpGUと歩調を合わせて国際化・多分野との交流を進める予定であることが確認された。

2) 学界関連報告

学界動向（神田副会長）

1月末までの情報がJOSニュースレターに掲載されていること、SCORのWGによる栄養塩標準物質提供の開始されること、IOC副議長に道田会員が再選したこと、WESTPACシンポジウムがチンタオで開催予定であることが報告された。

日本地球惑星化学連合（日比谷会長）

2016年度連合大会が5月22-26日に幕張メッセで開催されること、JpGU-AGU ジョイントセッションが49件あり、4件が日本海洋学会からの提案であること、投稿数4312件で前年より約400件増えたこと、セッション数が152件から409件に増えたことが報告された。また、役員選挙があり、日本海洋学会から8名が代議員に当選したこと、うち原田、日比谷両会員が理事に当選したことが報告された。

水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

年に2回の会合と11月の震災関連のシンポジウム開催について報告があった。大型研究計画、小学校教育に関する提案など、連絡協議会が他学会との合意形成の場として機能しつつあることが報告された。

3) その他

小学校理科4学年単元「海のやくわり」新設の提案について（市川幹事）

次期教育課程改定に向けて、小学校理科4学年単元「海のやくわり」新設について、水産・海洋科学研究連絡協議会を構成する16学会、沿岸環境関連学会連絡協議会を構成する13学会・委員会のうち12学会・委員会、その他海洋にかかわる7学会の賛同を得て、3月23日に中央審議会に提出することが報告された。

4. 審議事項

1) 2015年度事業報告並びに決算報告について（小畑・齊藤幹事）

事業報告と決算報告について説明があった。会費納入率が上がったこと、新たな広告収入があったこと、JO掲載料収入があったこと、大会戻り金があったこと、会誌送料が予定より少なかったことが説明された。

2) 2015年度監査報告について（植松監査）

2016年3月7日に、植松、須賀の両監査により2015年度監査を実施し、当該年度の会計処理が適切に行われたことが報告された。監査報告を踏まえ、2015年度事業報告、決算報告、監査報告が承認された。

3) 2016年度事業計画並びに予算案について（小畑・齊藤幹事）

2016年度の事業計画ならびに予算案を確認し、承認した。名簿発行費、会員情報管理WEBシステム導入のための初期費用を計上していること、WEBシステム導入により今後の名簿発行費が大幅に減少することの説明があった。

4) 会則変更について（小畑幹事）

附則 17 に従い、第 6 条 6 の特別会員を 2016 年 3 月 31 日に廃止すること、附則 22 を追加することを承認した。

5) JO Open Choice および掲載料変更について (石坂編集委員長)

JO に Open Choice を導入することについて説明があり、承認された。また、学会員が Open Choice を選択した場合は掲載料免除とすることをあわせて承認した。なお、Open Choice (2200EUR) の 5%の印税を学会が受け取ることができる。

6) 受賞記念講演座長について (小畑幹事)

座長が推薦され、原案通り承認された。

7) 名誉会員の推薦について (小畑幹事)

3名の会員の名誉会員への推薦について、理由書を確認し、総会の審議にはかることを承認した

8) 2016 年度通常総会議事次第案について (小畑幹事)

通常総会議事次第を確認し、承認した。

9) 2017 年度の総会などについて (小畑幹事)

2017 年度春季大会 (5/21-25、幕張) について、JpGU 担当幹事に実行委員長を委嘱すること、通常総会を春季大会期間中に開催することについて承認した。

1 0) 賞選考委員委嘱について (小畑幹事)

三賞選考委員を武岡会員、論文賞選考委員を浜崎会員と西岡会員に委嘱することが提案され、承認された。

1 1) その他

山城次期大会実行委員長

鹿児島で開催される秋季大会に向けての挨拶と、今後のスケジュールについて説明があった。